

倉橋先生と共に



田坂　ユキ

生命にみちみちた幼児と、永い年月いっしょに語り、いっしょに遊び、走りまわった春の日の園庭、粘土工作に夢中の時間を過した身の幸福を謝しつつ、五十年の永い日々この道に進み、その間、倉橋先生の保育の原理を、子どもたちの上に一心に考え、幼児といっしょに数々の遊びを創り出しました。子どもと思いきり楽しめなかった迷いの日、そんな時は、先生の温厚なお顔を思い浮かべながら……。

あらゆる可能性を持つたくましい姿、その一人一人の持つ強い発達の可能性の邪魔をしないように、伸び伸びと育つことを助ける仕事、保育者の大切な行く道。幼い人たちの友だちとなるための第一の大切なものは、その保育者のいきい

きしさ。このいきいきしさをなくして、子どものそばに居るとは、罪悪であると、重ねて先生は常に申されておられました。

どんな美しい感情も、正しい思想も、いきいきしさの欠けておるものは、子どもの生命そのものを鈍らせずにはおかない。いきいきしさの抜けたにぶい心、子どものそばには、この位存在の余地の許されないものはない。一瞬一瞬、子どもの心を触み、生きる力、伸びる力もうすれさせる。

「おや、この子どもに、こんな力があつたかしらん」と絶えず驚きながら、それを詠嘆するひまも、すぎまもない程に、こまかい心遣いに忙しいのが教育であり、幼児教育者です。絶えずまめやかさのある人が、幼児教育に貴重な保育者です。休む暇もなく気配りし、目と手と足も絶えず働かせている人、ちょうど園芸家に似た忠実さで、心も身体も共にまめやかな人、子どもの遊びに引きつけられて見入っていられるような人、そんな人ならば、子どもの嬉しい先生です。

まだまだ、幼稚園で、生活あそびの指導が充分でなかった、昭和十二年の九月に、倉橋先生をお迎えして、四国四県の幼稚園の先生方が、幼児の生活あそびについてお話をうか

がい、みんな、勇気づけられました。

自己充実を目指す遊びの状態から、自由遊びに、生活あそびにまで高めて行く、その段階において、個人から集団に、その生活を高め、方向づけて行つてはじめて、満足した遊びに入つて行く、その遊びが生活あそびの指導だとお教え下さいました。

終戦後早く、及川先生、堀合先生の御指導で、遊びについての内容や、技術の実習をし、いよいよ教師の内容的方面の豊かさが、遊びの相手に役立つことを教えられました。

残り少ない私自身の人生の終りの日まで、あか
るく、まめまめしく、いきいきと、子どもたちの
遊びのお相手が出来ますよう、惜しくも早く逝か
れました先生方が、遙かなかなたから、微笑しつ
つ見守っていて下さると、深く信じて、念じつ
つ、筆をおきます。

(昭安幼稚園)

← これは、倉橋先生が今治においでになった際にお書きくださったものです。

↓

